



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA
THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER. 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Let Us Walk in the Light-Together” 「ともに、光の中を歩もう」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「広げよう ワイズの仲間」
「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」
「休まず たのしく 元気よく」

2018 年5月号

NO 501

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。
それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

ヨハネによる福音書1章14節

奉仕帳は感謝の花束

山田利三郎

聖書には、「右手で行った善行は、自分の左手にも知らずな」との意味が書かれています。

ワイズ運動には、そのことを承知した上で、良い働きを自分の内にしまっておかないで、仲間に伝え、互いに讃え合い、励まし合い、高め合う伝統があります。

国際協会の「エンドウメント・ファンド (EF)」は、1959年に始まった国際ワイズダム発展のための特別基金です。クラブやメンバーの記念すべき出来事などの折に寄付を受け、寄付の事実とその理由をゴールデンプックに記し、永久保管しています。

日本では、1982年に「日本ワイズ基金」が設置され、現在は、東西日本区にワイズ基金（東日本区はJEF）が創設されました。

東日本区は、EFが一層、皆に親しまれ、管理運営の透明性を高めるため2016年に「東日本区ワ

イズ基金規則」を制定しました。

そこには、「この基金は、ワイズダムに関わる組織や人々の感謝の心を表す機会であり、…区が資産の一部として保有し、ワイズダムの安定かつ継続的な組織と事業の発展に資することを目的とする」と定められています。

日本版ゴールデンプックとして「奉仕帳」があります。東日本区事務所にある奉仕帳の頁をめくると、長年にわたる多くの人の献金と感謝の言葉で満ち溢れています。たとえそれが、愛する人とのわかれであっても。いわば感謝の花束です。

私たちの日常生活では感謝することが、多くあります。

その気持ちを形として表し、あなたの寄付の事実とその事由を永久に記録にとどめ、結果としてワイズダムの発展に資するのが、「ワイズ基金」なのです。

漱石の歩いた早稲田・神楽坂

WHOウォーキングのご案内



夏目漱石は、昨年生誕150年でした。今回は、彼が生まれ、数々の名作を発表し、生涯を閉じ、作品の舞台ともなったゆかりの地を現在の新宿区に訪ねます。

期 日：5月26日(土)

集 合：JR 山手線・高田馬場駅
東口 BIGBOX 前 9:45

解 散：JR 総武線・飯田橋駅
14:30

参加費：300円(交通費・施設入
場料はなし)

初参加の方は+200円

(写真は漱石山房記念館の猫塚)

クラブ役員

会 長 本川 悦子
副 会 長 石井 元子
書 記 篠原 文恵
会 計 村野 絢子
担当主事 宮崎 純

4月の記録		ニコニコ	10,800円
在籍者数	16人	メネット	0人
(内功労会員)	1人	クラブファンド	1,023円
出席者数	10人	ファンド残高	151,464円
メーキャップ	2人	ホテル校ファンド	1,000円
出席率	80%	ホテル校残高	87,372円
前月修正	-	WHO参加者	42人

5月例会のご案内

今月の強調テーマ： EF/JEF

今月の卓話者は元国際基督教大学の保健体育科に長く勤務していらした近藤洋子さんです。

現役中の研究テーマでもあり、定年退職後、開いた「舞スタジオ整体アンド民族舞踊」の代表で現在も活躍中です。

日本全国で古くから民衆に踊り継がれてきた懐かしい舞、見て、聞いて、出来れば動いてからだで感じて下さい。

日時：5月17日(木) 18:45~21:00

会場：「ウエルファーム杉並」4F 集会室

(杉並区天沼 3-19-16 TEL/03-5335-7330)

JR・丸の内線荻窪駅北口から徒歩8分

会費：1,500円(ゲスト・ビジター・メネット)

担当：B班(神谷、石井、河原崎、宮崎)

HAPPY BIRTHDAY

当クラブには該当者なし

受付 石井 元子
司会 河原崎和美

開会点鐘 会長 本川 悦子
ワイズソング 一 同
聖書朗読・感謝 神谷 幸男
挨拶・ゲスト&ビジター紹介 会 長
会食

卓話 “いのちの扉を拓く「おどり」”
舞スタジオ代表 近藤 洋子さん

ハッピーバースデー 会 長
諸報告 会 長 他
YMCA 報告 担当主事・宮崎 純
ニコニコ献金 一 同
閉会点鐘 会 長

— 4月第2例会(事務会) —

日時：4月26日(木)

19:00~21:00

場所：ウエルファーム杉並 4F

出席者：大野、篠原、高嶋、鳥越、
村野、本川、吉田

<報告事項>

- ①4月のデータを確認した。
- ②4月次会計報告を承認した。
- ③長期休会の小山多喜子さんを3月26日に本川会長と高嶋美知子さんが訪問して、近況を伺った。
- ④4月14・15日開催の京都ウェストクラブの「たけのこ掘り de BBQ」とペンタゴン交流会に高嶋美知子さんが参加した。
- ⑤4月25日に上智大学で行われた世界マラリアデーイベントに大野貞次さん、本川会長が出席した。
- ⑥熊本にシクラブが、設立を進めている熊本五福クラブのチャーターナイトを9月1日(土)開催の九州部会において催される。

<協議事項>

①5月第2例会

日時：5月24日(木)

19:00~21:00

場所：ウエルファーム杉並

②6月例会(年次総会)

日時：6月21日(木)

18:45~21:00

場所：ウエルファーム杉並
卓話は予定しないで、年次総会と国際ホテル学校留学生の奨学金贈呈式を行う。

③6月第2例会(事務会)

日時：6月28日(木)

19:00~21:00

場所：ウエルファーム杉並
④国際ホテル学校との情報交換、学生との交流のあり方や、奨学金の集め方について話し合いをした。

⑤ホテル学校の奨学金ファンド管理は、来期から村野絢子さんが担当することにした。

⑥クラブパンフレットの作成について引き続き話し合っていく。

⑦5月21日(月)~26日(土)に行われる東京YMCA会員芸術祭の受付の分担を受けることにした。(書記・篠原文恵)

卓話者紹介

近藤 洋子(こんどう・ようこ)さん

1964年、東京教育大学体育学部・健康学科卒業。

同年、国際基督教大学・保健体育の教員として、着任。2004年、定年退職。

在任中より、民族舞踊 整体法の研究及び実践を行い、多くの弟子を育成した。

現在 「舞スタジオ (整体アンド民族舞踊)」代表。現在も各地域で幅広く活動している。

5月以降の行事予定

- ★5月26日(土)
YMCA 会員大会(東陽町)
- ★5月21日(月)~26日(土)
東京YMCA 会員芸術祭(東陽町) 10:00~18:00
(最終日は、17:00で終了)
- ★6月2日・3日(土・日)
東日本区大会(沼津)
- ★6月9日・10日(土・日)
西日本区大会(神戸)

懐かしい名画を語る — 4月例会報告 —



副読本、青木勝彦さんの著書

4月19日。クラブ創立30周年の2006年から慣れ親しんできたあんさんぶる荻窪からウエルファーム杉並に会場に移しての初例会でした。

JR荻窪駅から北へ歩いて7分。4月にオープンしたばかりの明るくゆったりした会場です。

卓話は、ビジネスのかたわら映画評論をされている青木勝彦さんによる『映画に魅せられて—私の追憶の名画』。クラブメンバー世代は、「あの頃は映画しかなかったもんね」と誰しも言います。声を掛ければ出席者が増えると思いましたが、「20人くらいが話しやすい」ということで呼びかけは限定しました。

青木さん自身は、子どもの頃からの映画好き。『第三の男』で、小説とは違う映像による感覚表現のすばらしさに衝撃を受けたそうです。「観る」から「鑑賞する」への転機は、成瀬巳喜男監督、田中絹代主演『お母さん』。定年退職後に映画検定試験を受験、1級（達人）に合格。映画祭の審査、執筆キネマ旬報の映画普及委員をされています。

まず名画20作品のシーンを2分ずつ映写し、音と映像で懐かしい映画の世界にいざなう段取りでしたが、DVDと映写機が同調せず、一部再生できず、申しわけないことになりましたが、何事もなかったように話に切り替えら

れました。

お話は、興行としての映画、映画制作時の時代背景と狙い、印象的なシーン（ローマの休日・大いなる西部）、モノクロ映画の魅力、映画技術の進歩、などを具体的な作品名を挙げて語られました。なるほど、そういう意味があったのかと、深い洞察に驚きました。

すでに東京グリーンクラブでの卓話は決まり、お願いしたいクラブ也多そうです。ここでは内容には触れず、直接聞いてのお楽しみにさせていただきます。

例会の後、話し足りない人やクーリングダウンしたい人のために、ソフトドリンクが飲めるカフェを用意しました。新しい例会スタイルになればと思います。今回は、20人ほどが、講師を囲みました。（吉田明弘）

目黒川を天王洲に下る — 4月WHO報告 —

4月のWHOウォーキングは、目黒川に沿って五反田から東京湾河口の天王洲まで。五反田駅に集合したのは42人。昨年6月以来の40人台でした。

水質が向上した川には、時折、遊覧船が遡り、魚影も見られます。日射しが強く晴れ上がり、傘をさしたり、日陰を選んだり。かつての工業地帯、大崎は再開発され高層ビルが立ち並びます。

その一角にある日本ペイント

明治記念館を訪ねました。黒船によってもたらされたペンキの国産に成功した当時の煉瓦建ての工場が保存されていました。

ここからは、旧東海道に沿う寺町、由緒ある東海寺、荏原神社を巡ります。思いがけなかったのは清光寺にある譜代の大名奥平家の墓所。3mを超える石造りの五輪塔はじめとする89基もの石塔に圧倒されました。

旧東海道の品川宿は、目黒川が南北に分ける形です。どちらも見どころが多数ありますが、今回は、道を急ぎ、本陣跡と寄木神社だけに立ち寄りました。ここで東京グリーンクラブの樋口順英さんが、広重の浮世絵の拡大コピーを示して、往時と現在の風景を軽妙に解説されました。

漁師町の面影を感じながら天王洲へ向かいます。かつては、大きく蛇行して、それが、湊として用いられたようですが、今は一直線です。

東海上公園からアイル橋を渡ると天王洲アイル。元々あった洲と第4台場を基に埋め立てた、水に囲まれた。新空間です。

水辺のデッキを歩き潮風に当たり、東京モノレール・天王洲アイル駅で解散しました。

ワイズ関係の参加者は、石井・本川・吉田（東京西）、中澤・藤江（東京たんぽぽ）、樋口（東京グリーン）でした。（吉田明弘）



譜代大名松平家の迫力ある供養塔（品川・清光院）



広い会場に参加者や、バンザイ隊の声がかきまざるフライング大会

フライングディスク大会参加記

4月28日(土)に開催された富士五湖クラブのCS事業「第8回障がい者フライングディスク大会 in 群内」に「バンザイ隊」要員のボランティアとして参加しました。競技の内容については割愛させていただきますが、「バンザイ隊」の役目は、競技を終えて表彰台(台はないが)に集まってきた各グループに対して成績1~3位者の表彰(金~銅メダルと成績証書授与)とそのグループ全員の健闘を祝してバンザイ三唱して激励することです。

本大会の趣旨は、日常フライングディスク競技を行っている障がいのある方が日々の練習の成果を発揮する場と各地の自立支援施設の交流の場として、充実した生活の一助に、また社会参加の一步となることを願って開催しているとのことで、素晴らしいCS事業であると思います。

CS事業を実施することは世間に対するワイズメンズクラブの認知度、会員増強(EMC)効果向上に欠かせない活動であることは言をまちませんが、個人的には、CS事業を実施するための企画・運営にかかるエネルギーを考えると、悲しいかな現在持ち合わせない状態になってしまいました。現在の心情としてはせめて他人が企画・実施するCS事業のお手伝いだけでもしようと思っこのイベントに参加した次第です。他クラブの特にあずさ部に

属するクラブのCS事業には努めて参加したいと思っています。

東京西クラブメンバーの参加者は大野貞次さんと神谷でした。大野さんは開会式において富士吉田市副市長、恩賜林組合長と並んで来賓ゲストあいさつと閉会式において東日本区理事賞授与の役目を担いました。(神谷幸男)

“ZERO マラリア 2030” キャンペーン

4月25日に上智大学で“ZERO マラリア 2030”のイベント「狂言『蚊相撲』と日本のマラリア」が行われました。これは世界マラリアデーに合わせて同日に開催されたものです。

イベントの事務局は、マラリア・ノーモア・ジャパン(MNMJ)で、後援は、朝日新聞社、㈱電通、ユニセフ日本事務所、UNDP 駐日代表事務所、それにワイズメンズクラブ東西日本区でした。

当日は、学生を含む230人の参加者があり、ワイズからは25人が参加しました。

毎年2億人以上もの人がマラリアにかかり、42万人近くの人々が命を落としています。

“ZERO マラリア 2030”に向けて、マラリアの対策について専門家たちが話し合い、理解しやすい解説がありました。

大蔵流若手能楽師、大蔵基誠さんによる蚊を題材にした狂言「蚊相撲」が披露され楽しみました。

こういう他団体との協働もあ

りだと、思いました。

(本川悦子)

インビテーション キャンペーン結果まとまる

東日本区では、毎年、クラブ例会に友人・知人をゲストとして招く、キャンペーンを行い、その結果を集計しています。

東京西クラブとして、17年5月から18年4月までの期間に招いたゲストは、延べ16人でした。

紹介者は、石井・高嶋・本川・宮崎・村野・吉田さんと、田上正さんでした。

これまで、当クラブは、このキャンペーンに参加していませんでした。

YMCA Today

◇会員大会のお知らせ

年に一度の会員大会を開催します。日ごろ東京YMCAをお支えくださる会員みなさまに、活動を報告申しあげるとともに、会員の表彰、交流会などを行ないま

す。YMCAの活動内容や会員とは何かについて、実際にご覧いただける貴重な機会です。ぜひお気軽にご参加ください。会員以外の方もお気軽にご参加ください。

日時：5月26日(土) 13:30~

16:45 東陽町センター

会員：2,000円 一般：1,000円

内容：介護予防(体験)・野尻学荘・下町子どもダイニング・チャイルドケアの紹介、チャリティーオークションなど。

申込み：メール、ファックス、お電話で5月14日までに会員部までお願いいたします。

◇チャリティーゴルフ大会が4月12日に開催され、121人がプレーを楽しみました！支援金は50万円となり経済的困難を抱える子どもたちや、障がい児、不登校児の支援活動のために大切に用いさせていただきます。

(担当主事 宮崎 純)

☆☆ インタビュー ☆☆ 小川 圭一之さんに聴く

* * *

小川圭一さん（東京世田谷クラブ）は、各地の「童謡唱歌を歌う会」の推進者です。



—小川さんがワイズに入る前、偶然、会ったことがありましたね。

「そう、25年ほど前、私が住んでいた町で教会のパンフレットをポスティングしている吉田さんに、私にも1枚くださいと声を掛けました」

—自分からくれと言う人が珍しいのと、声が記憶に残り、何年か後で、東京世田谷クラブとの合同例会でお会いした時、あの時の夫妻だと、すぐわかりました。

—もう一つ、小川さんの経営する音楽事務所名の「ムシカ」は、日本のワイズ史に残る喫茶店名です。昭和25年、この年の日本区大会は3月に広島で日帰りで開催され、広島以东のワイズメンは同じ列車に乗って参加しました。仙台発土曜日午前10時30分。夜行列車で、朝5時14分に広島駅に着いたワイズメンは、寒さを避けるために駅前のムジカに案内され、椅子に身を沈めました。その時、巨大な蓄音機から、ワイズソングの原曲『フィンランディア』が流れ、みんな奮い立ったそうです。オーナーが、広島クラブのメンバーでした。

「それは知りませんでした。でもムシカにはレコード盤が沢山あり、高校時代、私は入りびたりでした。敬愛する先生がピアノを弾いての歌声もありました。私の音楽の原点は、ムシカにありま

す」

—小川さんは、戦後の広島生まれ、どんな小学生時代でしたか。

「父が公務員で、入学式は小野田市赤碕小。上京後に知合った神父が先輩でした。3年生途中から、丸亀市城西小。変声期の僕が合唱団から追放され、人生初の挫折を味わいました。中学1年で広島へ戻りました。大好きな音楽に出会います」

—音楽を仕事にすることは、早くから決めていたのですか。

「小さい時から歌を褒められていましたが、大学は文系に進み、先輩が経営する環境音楽専門会社に就職し、企画制作と営業の仕事に着きました。その後、広告イベントと音楽を特化して起業しました」

—結婚されていたのですか。

「はい。会社員時代に、メディアやステージ、広告音楽で活躍していたメネットと結婚しました」

—礼子さんとは二人三脚。

「はい、プロデューサーと演奏家で、私の夢を応援して、たくさん実現してくれました。企業の社歌、学校の校歌、駅の発車音楽、コマーシャル、レストランのコンセプトジングル、美術館のサウンドインスタレーション、音楽療法学会のためのヒーリング音楽など…いろいろやりました。ずいぶん楽しみました」

—プロ野球の球場でのホームランファンファーレは、小川さんの発案とか。

「発案はある球団のオーナー氏ですが、企画制作を担当しました。これも面白かった」

—ワイズとは、どういう接点がありましたか。

「阪神淡路大震災の年、イベントコンサートを神戸へのチャリティにしました。その時、チケットをたくさん買って下さったのが当時の東京世田谷クラブの会長さんでした」

—それで。

「誘われる前に、私が入会を希望しました。息子がお世話になったミッションスクールのPTA会長は、息子と一緒に卒業になりますが、YMCAのPTAはずっと続けられると思ったからです」

—クラブへの溶け込みは早かったように見受けましたが。

「例会にはほぼ夫婦で出席しました。メネットは、例会でのワイズソングやハッピーバースデーの伴奏や礼拝の奏楽をさせていただきました」

—小川さんは、童謡唱歌を歌う会を東京YMCA南センターで始められました。YMCAにとってもクラブにとっても地域密着のプログラムになりましたね。

「ロコミだけで続いて16年になります。被災後の石巻にも何度も出かけました」

—その後各地に。

「下北沢、町田、横浜、浦和、永福町、三軒茶屋。西日本区からも声が上がっています」

—2016年に、礼子さんを亡くされました。礼子さんは小川さんに牧師になって欲しかったとか。

「宝くじを当てて神学生になって、頂戴…遺言です」

—東新部長や事業主任をされました。印象に残ることは。

「チャリティコンサートを応援して下さった会長が、東日本区理事になられ、書記を拝命しました。沖縄初の区大会は夢中でした」

—ワイズの良さは、どこにあると思われませんか。

「自己肯定と他者肯定がしっかり出来るメンバーがたくさんいる。実に楽ですよ」

—楽？

「そう、上下関係のない、気の置けない同志の集まりですから。生涯現役ボランティアです」

—ありがとうございました。

(吉田明弘)

11) 太極拳と筋トレ体操

「あなたの寿命チェックシート」の前順天堂大学医学部教授の白澤卓二先生が、最近「太極拳」にはまってしまった。

ヨーロッパでの「パーキンソン病」のふらつきや転倒に、この「太極拳」のエクササイズが、筋トレやストレッチ体操よりも、効果が高かったという研究発表に触発され、自ら「太極拳」を習い、ゆ

っくりとした動きと深い呼吸が理に適い、脳や身体への8疾患(肥満・認知症・高血圧・転倒予防・糖尿病・脂質異常症・寝たきり・鬱病)の効果を体験された。

最近、「国際メディカルタイチ協会」を作って理事長になられた。9月に「呼吸で10歳若返る」という著書を出版され、医学的タイチ(太極拳の英語)の普及と組織化に乗り出されたという。

確かに高齢者にとっては無理なく実施可能で転倒予防には高い効果が確認されている。

「深い呼吸で体のすみずみまで酸素を巡らせよう」として、イスに座ったままの基本的なエクササイズ1~7を巻末にイラスト入りで紹介されている。

これから日本中に広まるかも知れない。

シゲとあーやの子育て⑩

村野 絢子

四女のYは短大で保育を学び、長女と同じICYEで台湾に行き1年間過ごした。3か月後、台南を訪ねると英語と中国語を達者に話すのでびっくりした。その後、親しくなったスウェーデン人の友人と一緒に、彼のご両親を案内したのが気に入られ、「次はスウェーデンにいらっしやい」と招かれた。

彼のところで1年間、今度はスウェーデン語を学んだ。私と友人

達4人で北欧の旅をした折には、ご両親が2台の車で、有名なガラス工場「コスタ・ボーダ」にお連れ下さった。

日本に戻った後、長男Yの紹介でクラブメッドで働き、タイのプーケットで同僚のモーリシャスの男性と親しくなり、結婚した。

インド系のモーリシャス人の彼も5人兄弟の末っ子、末っ子同士の結婚であった。和泉教会で式を挙げた後、私ども夫婦と長女が出席し、異文化のモーリシャスで3日にわたる現地式の披露宴を挙げた。その後、夫の勧めでホテル

の仕事に就き今に至っている。

上の3人の娘は日本でお産をし、4人目の男の子は、娘たちが在学中のため、現地の病院で初めてお産をした。出産前後2カ月間長女が手伝いに行き、その後1か月、母親の私がバトンタッチしたが、到着した夜、タイルの浴室で転んで右腕を骨折してしまった。

翌日Yの夫の車で英語の解る国際病院で手当てを受けた。手先は使えるので家族の食事担当と乳児のナーサリー送迎を担当した。呆れたばーばのあーやである。

東伏見稲荷神社を訪れて

お天気良く暖かな春の日差しの中、娘と東伏見稲荷神社へ行ってきました。

ここは、京都伏見稲荷大社の協力の下1929年に創建されました。京都伏見稲荷大社より東にあるから「東伏見」と命名されたようです。私はてっきり東伏見の地名から「東伏見稲荷神社」だと思っていました。逆で、ご鎮座にあわせて西武新宿線の駅名が上保谷から東伏見に変わったとのことで驚きです。

祀られているご祭神は、うかひぢぢみみたまのおおかみ宇迦御魂大神、さだひこのおおかみ佐田彦大神、おおみやのめのおおかみ大宮能売大神です。

拝殿の左奥に、お塚参拝道への入口があります。こちらの赤い鳥

居は一度見たら忘れられないほど印象に残るものです。決して広いとは言えない境内に100基以上の鳥居があります。そして、それは綺麗に並んでいるわけではなく、小道もたくさんあり、まさにキツネにつままれたような感じを受け不思議な空間でした。

凜とした空気の中、新緑と赤のコントラストが美しく、新東京百景の一つに選ばれているとのこと。更に、2018年の最強のパワースポットに認定されているとか。やはり何か引き寄せられたのかも知れません。油揚げをお供えするためのカゴも用意されており、次回は油揚げ持参で参りたいと思います。

(河原崎和美)

編集後記

今月号の編集者は神谷さんでしたが、都合により急遽代わりにお手伝いすることになってしまいました。

改めて分かったことは、ブリティッシュ編集の3分の1は原稿依頼で、定期物は何とか間に合いましたが、皆さんの日頃のご苦勞が偲ばれます。ご協力くださった方々、有難うございました。

5月12日は富士吉田市でのあずさ部会、来月は沼津での東日本区大会、今年の花便りのように、ちょっと気ぜわしい日々が続くそうです。(F.S)